

# 第 I 章 調査の概要

## 1. 調査の目的

現行診療報酬制度においては、長期療養患者を受け入れる病院として一定の施設要件と人員配置要件を満たした療養型病棟と老人病棟があり、いずれも定額払いである。そして、①より上の施設基準を満たしている場合、②入院患者の ADL 障害や痴呆症状が重症の場合に、一部加算が認められている。

長期療養患者に対するこの支払い方式には、いくつかの問題点がある。第一に、包括払いは患者一人ひとりの医療ニーズを反映した支払いになっていないため、患者にとって必要な治療・ケアが提供されない危険性がある。第二に、ADL 障害や痴呆症状による介護のニーズに対応した加算も大雑把である。このため、必要な介護ニーズが行われない危険性がある。そして第三に、加算が行われる患者の ADL や痴呆症状については、その要件を満たしているかを検証・点検することが困難なこと、である。

このように現行の長期療養患者に対する支払い方式は、医療の質の確保、費用の補償、審査体制の強化等の上で問題があるといわざるを得ない。

そこで、今後の長期療養患者に対する包括払いの検討において必要なことは、①患者の特性を適切に把握することによって、効率的な医療の提供を目指すこと、②審査体制と医療の質の評価体制を強化して、患者本位の医療を確立することである。

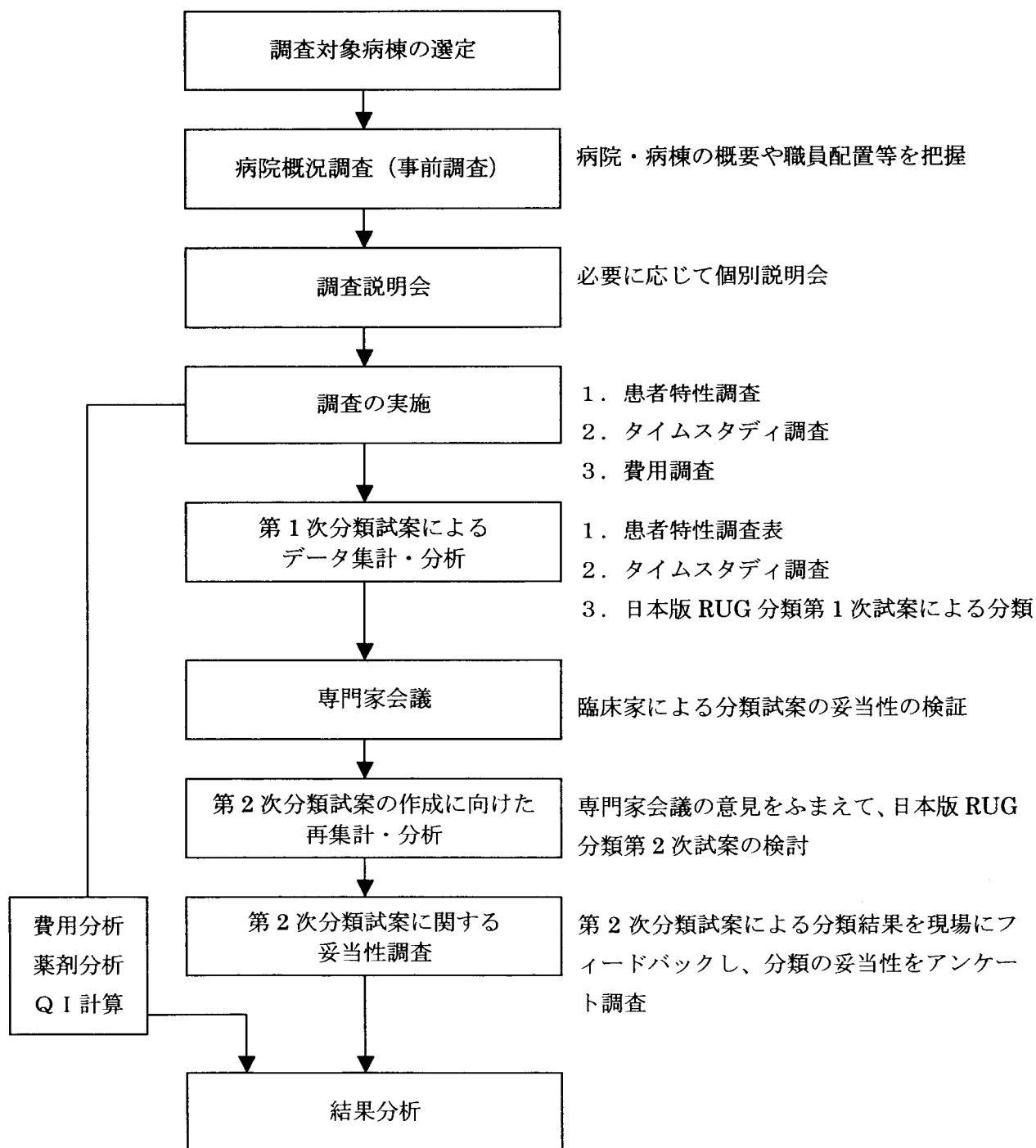
急性期対応の「一般病床」は DPC (Diagnosis Procedure Combination、診断群分類別包括評価) による支払い方法がすでに特定機能病院において導入されているが、「療養病床」については、包括支払いが基本的に合意されているにもかかわらず、具体的な方法についてはまだ議論されていない。一方、平成 13 年度特別保健福祉事業費助成金 (共同事業助成事業分) 事業「亜急性期から長期の入院患者に対する新たな支払い方式に関する調査研究」において、RUG-III (Resource Utilization Group-Version III) の妥当性について検討した結果、日本の実状にあった分類の再検討が必要であるという結論に至った。

そこで本調査研究においては、急性期以外の入院患者の支払いのあり方に関し、以下の 3 点について検討することを目的とする。

- ①RUG-III 分類をもとに日本版 RUG 分類試案を開発し、その分類の妥当性を臨床的、統計的に検証し、日本の実状に即した新分類案を検討する。
- ②タイムスタディと費用調査から、個々の分類に対する報酬額を推計する。
- ③包括的なアセスメントによる患者の属性データから客観的にケアの質を測る指標を検討する。

## 2. 調査の流れ

本調査の流れは以下のとおりである。なお、日本版 RUG 分類の開発手順について、具体的には、第 1 次分類試案を作成し、その結果の妥当性を臨床家が分析し、それを踏まえて調査結果を再度分析、検討し、第 2 次分類試案を作成する。この第 2 次分類試案の結果を現場の医師と病棟スタッフにフィードバックして、分類の妥当性についてアンケート調査を実施し、結果を分析する。



### 3. 調査の対象となる病棟

本調査研究においては、病棟単位で調査を行い、調査時点で対象病棟に入院している全患者を対象とした。対象とする病棟は以下のとおりとした。なお、一般病院入院基本管理料 1~2 および介護病棟は対象外とした。

#### 対象病棟

- ・一般病院入院基本管理料 3~5、特別入院基本料 1,2
- ・療養病棟入院基本料
- ・老人病棟入院基本料
- ・老人一般病棟入院医療管理料
- ・老人性痴呆疾患治療病棟入院料
- ・老人性痴呆疾患療養病棟入院料
- ・特殊疾患入院医療管理料
- ・特殊疾患療養病棟入院料 1, 2
- ・回復期リハビリテーション病棟入院料

### 4. 調査の方法

#### (1) 患者特性調査（アセスメント）

患者特性調査においては、MDS2.0 施設ケアアセスメント表から、新たに開発する日本版 RUG 分類試案の分類に必要な項目を抜粋し、「患者特性調査票」（資料編、資料 1）を作成して使用した。患者特性調査票は対象病棟患者全員に、タイムスタディ調査実施の前後 10 日間に 1 回実施した。調査票の記入にあたっては、患者の特性をよく理解し、専門的な判断もできる看護師を中心とする病棟勤務職員が実施した。

#### (2) 時間調査（タイムスタディ）

タイムスタディ調査は、各患者に要したコスト（人件費）を計算するために、患者一人ひとりが病院のスタッフから、合計どのくらいのケアを受けたかを測定することを目的としたものである。

ケアの提供者は「病棟スタッフ」および「病棟外スタッフ」の 2 グループに分けて調査を行い、「病棟スタッフ」は、調査対象病棟の入院患者と毎日関わるスタッフで、入院患者のケアのために各病棟に配置されている看護師、看護助手等とした。

「病棟スタッフ」については、入院患者に毎日関わっているので 1 日 24 時間の調査を実施した。

「病棟外スタッフ」は、病棟ごとではなく、病院全体にわたるケアを対象に配置

されているスタッフで、当該病棟の入院患者と毎日関わることのない医師、リハスタッフ等とした。「病棟外スタッフ」については、入院患者と毎日関わっていないので、7日間にわたる調査を実施した。

また、調査の実施にあたっては、事前に調査説明会を開催し、調査参加スタッフへ十分な説明を行った。なお、病棟スタッフが患者に接する時間は曜日等により異なる可能性があるため、調査にあたってはできる限り特別な行事がない曜日を選んで実施した。ただし、入浴については毎日実施されているわけではないので、入院患者の入浴方法に応じて時間を按分した。

### ①病棟スタッフの時間測定

病棟スタッフの時間は、「入院患者ケア時間」と「その他の活動時間」の2つに分けて記録し、さらに「入院患者ケア時間」の中で看護職が行う医療的な「処置」にかかった時間を区別して記録した。

「入院患者ケア時間」とは、病棟スタッフが各入院患者に対して行うケアに要した時間及びこれらスタッフが各入院患者に直接関わっている時間、すなわち特定の入院患者に帰属する時間を指す。「その他の活動時間」とは、会議、定期的な書類作成、管理・運営、病棟の維持・管理、病棟外の活動、食事・休憩等の特定の入院患者に帰属しない時間を指す。

### ②病棟外スタッフの時間測定

病棟外スタッフは、7日間にわたってデータを収集し、調査対象の入院患者に関して費やした時間を分単位で記録した。

## (3) 費用調査

患者一人あたりに実際にかかるコスト（人件費や固定費を含めた総コスト）を推計するため、平成14年度の損益計算書および職種別人件費を調査・分析し、患者の状態に応じて変わるケアサービス等の変動費用と施設の維持・管理のための固定費用を推計した。その結果から、日本版RUG分類試案の分類ごとに費用を推計した。

## (4) 分類結果に対する妥当性調査

分類試案と患者一人ひとりの分類結果を現場にフィードバックし、現場の感覚に照らして、分類が妥当かについての意見をアンケートにて収集した。

## (5) 処方調査

日本版 RUG 分類試案と薬剤費との関係进行分析し、薬剤費の包括化がどこまで可能かを検討するため、患者特性調査票「S. 薬剤」の項目から、処方されている薬剤の種類と量を集計し、薬価に換算して薬剤費を計算した。

## (6) ケアの質を測るためのQI指標調査

患者特性調査票の項目から客観的にケアの質を測る指標として QI を算出した。なお、MDS2.1 から設定できる QI の指標はもともと 15 項目であるが、その抜粋版である患者特性調査票から算出できるのは 6 項目であり、それらについて算出すると同時に、現場に役立つようフィードバックの方法を検討した。

## 5. 調査対象病院の概要

本調査の対象病院は、27 病院 39 病棟であり、各病棟の種別および調査対象者数は以下のとおりである。

表 I - 1 病棟種別と対象者数

(単位：人)

病院名	病棟名	病棟種別	全調査対象者数		タイムスタディ調査と患者特性調査の両方の調査を実施した対象者数
			タイムスタディ調査	患者特性調査	
病院1	1 病棟	特殊疾患	28	28	28
病院2	1 病棟	Ⅱ群一般 3	37	37	37
病院3	1 病棟	特殊疾患	47	47	47
	2 病棟	回復期リハ	45	45	45
病院4	1 病棟	I 群一般 4	46	46	46
	2 病棟	特殊疾患	46	46	46
	3 病棟	特殊疾患	44	46	44
病院5	1 病棟	療養 1	38	38	38
病院6	1 病棟	回復期リハ	50	49	49
	2 病棟	回復期リハ	42	41	41
病院7	1 病棟	療養 1	50	50	50
病院8	1 病棟	療養 1	58	59	58
病院9	1 病棟	Ⅱ群一般 3	39	39	39
病院10	1 病棟	療養 1	50	55	50
病院11	1 病棟	Ⅱ群一般 3	48	48	48
病院12	1 病棟	Ⅱ群一般 3	51	58	51
	2 病棟	Ⅱ群一般 3	49	60	49
病院13	1 病棟	Ⅱ群一般 3	27	27	27
病院14	1 病棟	回復期リハ	36	36	36
病院15	1 病棟	I 群一般 3	20	19	19
	2 病棟	療養 1	20	19	19
病院16	1 病棟	Ⅱ群一般 3	36	34	34
	2 病棟	療養 2	14	14	14
病院17	1 病棟	Ⅱ群一般 3	31	31	31
病院18	1 病棟	Ⅱ群一般 3	27	27	27
病院19	1 病棟	Ⅱ群一般 3	43	43	43
病院20	1 病棟	Ⅱ群一般 3	14	14	14
	2 病棟	療養 1	22	22	22
病院21	1 病棟	Ⅱ群一般 4	51	51	50
病院22	1 病棟	Ⅱ群一般 3	26	24	23
	2 病棟	療養 1	30	30	30
病院23	1 病棟	Ⅱ群一般 3	19	19	19
病院24	1 病棟	Ⅱ群一般 3	52	52	52
	2 病棟	Ⅱ群一般 3	51	51	51
病院25	1 病棟	療養 1	25	26	25
	2 病棟	I 群一般 3	48	58	44
病院26	1 病棟	療養 4	46	45	45
病院27	1 病棟	Ⅱ群一般 4	43	43	43
	2 病棟	療養 4	12	12	12
全 39 病棟			1461	1489	1446

また、病棟種別による対象者数は以下のとおりであり、「Ⅱ群一般3」が15病棟と最も多く、ついで「療養1」が8病棟となっている。

表1-2 病棟種別による対象者数

(単位：人)

病棟種別	病棟数	全調査対象者数		タイムスタディ調査と患者特性調査の両方の調査を実施した対象者数
		タイムスタディ調査	患者特性調査	
I群一般3	2	68	77	63
Ⅱ群一般3	15	550	564	545
I群一般4	1	46	46	46
Ⅱ群一般4	2	94	94	93
回復期リハ	4	173	171	171
特殊疾患	4	165	167	165
療養1	8	293	299	292
療養2	1	14	14	14
療養4	2	58	57	57
計	39	1,461	1,489	1,446